



南小だより

令和6年7月1日 【第4号】
蕨市立南小学校 児童数507名
〒335-0003 蕨市南町1丁目36番6号
TEL 048(442)2514 Fax 048(442)2516
HP <https://minami-e-warabi.edumap.jp/>

学校教育目標 **かしこく ゆたかに たくましく**

百聞は一見にしかず

校長 山口 浩

先日の講話集会で、子供たちに次のような話をしました。

「百聞は一見にしかず」

「ひゃくぶんはいつけんにしかず」と読みます。多くの人がこの言葉を聞いたことがあると思います。意味は、実際に自分の足で現地に出向き、自分の目で見て確かめることが大切である、ということです。私もそのとおりだと思います。例えば、みなさんの学級に行き、実際にこの目で授業の様子を見ると、みなさんの真剣な姿や楽しんで学ぶ様子がよく分かります。

実は、この言葉には続きがあります。「百聞は一見にしかず」に続いて、「百見は一考にしかず」「百考は一行にしかず」と、続きます。聞くことよりも見ること、見ることよりも考えること、考えることよりも実行することが大切である、という言葉です。私は、これをばらばらに読むのではなく、ひとつつながりの言葉として捉えることがよいのではないかと思います。つまり、思い描いた成果を出すには、よく聞いて、事実を見て、自分の頭で考えて、試してみなければ、よりよい成果にはつながらない、ということをお話してくれる言葉だと思います。

例えば、とび箱で「かいきゃくとび」ができるようになりたいと思ったとします。まず、できる人にどうやればできるかを聞きます。次に見本を見せてもらいます。見本を見ながら「両足でふみきり板を強く蹴って、手を前の方についているな」と考えます。そして何回も何回も練習します。そして、ついにできるようになったとき、その人は大きな達成感を味わうことができるのです。

この言葉のとおり、まずは、人の話を最後までよく聞くことから始め、よく見て、よく考えて、ねばり強く実行しましょう。

学校はまちがえるところ。失敗を恐れずに、チャレンジすることを大切にしてください。

上記の言葉は「漢書」の「趙充国伝」にあります。実はまだ続きがあり、「百行は一果にしかず」「百果は一幸にしかず」「百幸は一皇にしかず」と続いています。つまり、成果を上げるだけではなく、それが幸せや喜びにつながるというわけがない。そして、その幸せや喜びは自分一人のものではなく、周りの人みんなの幸せにつながるというわけがない、ということです。こうやって「幸せのラリー」をしていくことができたなら、きっと素敵な世の中になりますね。子供たちには話していないことなので、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。